

平成 25 年からの西之島沖噴火による新たな陸地の形成・拡大について (第六報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認され、その後も噴火は継続し、西之島と一体となり島の面積は拡大を続けている。

12 月 10 日に「くにかぜ III」で撮影した空中写真を判読して地形判読図を作成した。地形判読により判明したことは以下のとおりである。

1 . 島の面積の拡大

主に北方及び北東方向へ流下した溶岩流により島の面積は拡大し、旧島の大部分が新しい溶岩流に覆われた。中でも北方に流出した溶岩流は規模が大きい。

2 . 火砕丘の成長

7 月 4 日時点で二つあった火砕丘のうち、北側の火砕丘は高さ大きさともに成長しており、南側の火砕丘は埋積されつつある。

3 . 溶岩流先端の侵食と砂州の形成

海に流出した溶岩流は波浪により侵食され、湾入部に溶岩片等が堆積し、砂州が形成されている。

4 . 溶岩ドームの形成

火砕丘の東部（海上保安庁報道資料（平成 26 年 8 月 27 日）で「東側火口」と示された付近）に、ごく小さな溶岩ドーム（別紙 5 - 1 : ）が形成されていることが判読できた。別紙 5 - 1 では「火口・溶岩噴出口」として表示している。